

~~~~~  
外来生物調査プロジェクトProject A報告

## 広がりつつある？外来種ヨシススキ

ヨシススキという植物をご存知の方は少ないのではないかと思います。イネ科の植物でアジアの熱帯～亜熱帯に分布しています。ヨシススキは沖縄では割と古くから侵入していることが知られていたのですが、近年、本州から九州にかけて生育が確認されるようになってきました（植村ら, 2010）。茨木ら（2015）によると、群馬、神奈川、静岡、島根、香川、愛媛、徳島、宮崎、鹿児島、沖縄の各県に分布しています。このほかに、近畿地方（大阪、和歌山）でも最近になって分布していることが確認されています（近畿植物同好会掲示板）。これらの多くは、道路法面や最近になって工事された場所等であることから、緑化目的で吹き付けられた種子に混入して、

広がった可能性が指摘されています（茨木ら, 2015）。

この新しい外来植物のヨシススキですが、正確に同定するには、花（小穂）をちゃんと調べないといけないのですが、とにかく大きいことが特徴です。良好に生育すると穂を出した時点で4mを優に超えます（図1、2）。こうなるともはやススキとはとても思えません。外観上よく似ているのはトキワススキですが、ヨシススキの方がさらに大きくなり、開花時期もトキワススキが7～8月に対し、ヨシススキはこれからの季節9～10月です。公園などに植栽されるシロガネヨシ（パンパスグラス）にも似ていますが、ヨシススキの穂はもっとほっそりとしています（図2）。



図1：出穂期のヨシススキ（和歌山市ふじと台2015年9月20日 植村修二氏撮影）。

ヨシススキを探して！と言われても、見たことないし、困ってしまうと思いますが、図1、2のようなとにかく大きい、イネ科の植物が群生しているような場所を見つけたら教えてください。同定や生育地の確認は私の方でもしていきたいと思います。ヨシススキはまだあまり広がっていませんが、今後、急速に分布を拡大する可能性もあります。外来種対策で最も重要なのは、広がりはじめの状況をきちんと把握し、対策を行っていくことです。ヨシススキはまさに今、現状を正しく把握しておく必要がある種だと考えています。

謝辞：ヨシススキの近畿地方での分布状況についてご教示いただき、写真を提供していただいた植村修二氏に御礼申し上げます。



図2：最近工事されたと思われる法面に群生していた。まだ穂は出していないが、高さはすでに3mを越えていた。（大阪府東大阪市2017年8月4日撮影）。

文献

- 茨木 靖・大森威宏・勝山輝男・木下 覺・久米 修・木場英久・斎藤政美・野津貴章（2015）. 日本国内におけるヨシススキ *Erianthus arundinaceus* (Retz.) Jeswiet. (イネ科) の分布と生育状況について. 植物地理・分類研究. 62(2), 85-92  
 近畿植物同国会掲示板<http://9315.teacup.com/sinkinshoku/bbs> (2017年8月1日確認)  
 植村修二・清水矩宏・水田光雄・廣田伸七・森田弘彦・勝山輝男・池原直樹（2015）. 増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第2巻. 全国農村教育協会.

は せ が わ ま さ ひ ろ  
 <長谷川匡弘：博物館学芸員>

